

恵庭市内小学校における救命講習の授業導入について

1 これまでの経緯と目的

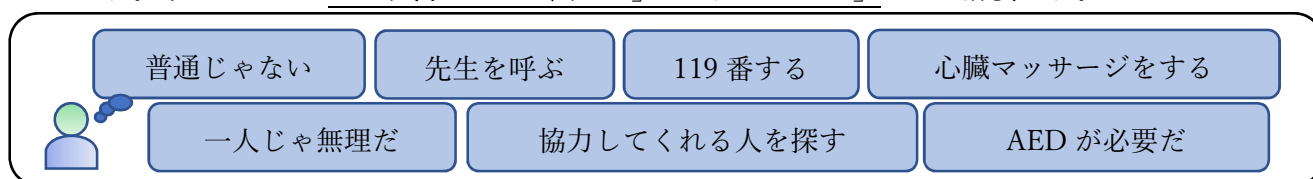
令和3年度をもって、次表のとおり市内小学校への救命講習授業導入の試行を終えました。試行と検証結果を踏まえ、令和4年度から、安全な学校づくり、救命率の向上に寄与することを目的として、市内小学校協力のもと、応急手当に関する授業導入がはじまりました。

平成30年度	平成31・令和元年度	令和2年度	令和3年度
9月13日(木)の校長会にて、本件を提案。 3か年で全小学校へ試行的に実施となる。	恵庭小学校6年生 島松小学校6年生 ※新型コロナウイルスの影響によって実施件数にばらつきがございます。	松恵小学校5年生	若草小学校6年生 柏小学校6年生 恵み野旭小学校6年生 恵み野小学校6年生 和光小学校6年生

2 救命教育の意義

(1) 安全な学校生活に寄与する

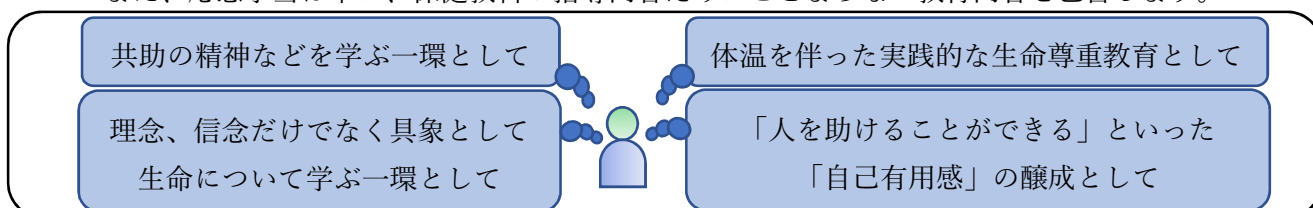
学校では、教職員の人数に比べ圧倒的に子どもたちが多く、子どもが第一発見者になる確率が極めて高くなります。小学校から応急手当の体系的な取り組みを行うことで、救命に繋がる確率は高まります。子どもたちが「まず何をしたら良いか」を「知っている」ことが肝要です。



(2) 子どもたちの成長のために

発育段階に応じた体系的なカリキュラムで繰り返し教育を受け、徐々に身につく応急手当の知識・技術は、子どもたちが成長し、社会の主体的な構成員になったとき真に生かされます。

また、応急手当は単に、保健教科の指導内容だけにとどまらない教育内容を包含します。



3 授業導入に係る構想

本件は小学校における授業導入のみならず、将来的に、中学校でも学習指導要領に基づいた応急手当・心肺蘇生法に関する授業を実施している実情を踏まえ、小学校からの授業導入と組み合わせ、小中連携した統一性のある救命教育の取り組みを構想しております。

令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校での授業導入開始 (中学校への授業導入の依頼)	小学校での授業の継続 中学校での授業導入(想定)	小中連携した取り組みの継続
将来的に、消防と小中連携した取り組みと位置づけ、 一貫性のある救命教育 を目指しています		
小学校到達目標 ：授業を通して、応急手当の重要性や、やり方を「知る」、「大人を手伝う」		

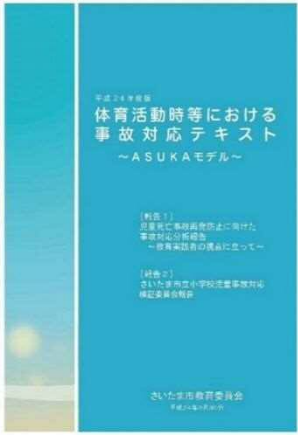
4 先進的な取り組みから学ぶ

平成 23 年にさいたま市で発生した桐田明日香さん（当時小学校 6 年生）の死亡事故を経て、翌年、再発防止策を打ち立て「体育活動時などにおける事故対応テキスト～ASUKA モデル～」ができました。

また、さいたま市では小学校 5、6 年生～中学校 1 年生で、応急手当について学ぶ体系的な授業カリキュラムが実践され、事故後、約 5 年間で、さいたま市の教育委員会が管理する施設の AED 使用率（パッド装着率）が事故前の 13 倍まで跳ね上がったそうです。

恵庭市の学校教育の場においても、いつか、どこかで、心肺停止の人に直面するかもしれません。

その場に居合わせた子どもたち、教職員が連携し、救命の輪を繋げ、悲しい事故を繰り返さないよう、学校における救命教育の場を設け、応急手当を普及推進してまいります。

ASUKA モデルの概要	
平成 23 年 9 月 29 日、明日香さんは放課後の校庭で行われた駅伝の課外練習中に、1000m 走のゴールで倒れた。校庭では 9 人の教諭（実習生含む）が、指導に当たっていた。倒れた周囲にいた複数の教員、養護教諭は、「呼吸がある」、「脈がある」ととらえ、胸骨圧迫、人工呼吸などの心肺蘇生や AED の装着といった救命処置は、救急隊到着までの 11 分間行わなかった。明日香さんは、翌 30 日、家族に看取られながら亡くなった。 このような悲しい事故を二度と起こさせないよう、当時のさいたま市の教育委員会、遺族が協力、研究し、できた教員研修向けのテキストです。現在も、研究、講演などの啓発活動が続いています。	
※ 恵庭市内における児童、生徒が関与した社会復帰症例の一部紹介 ① 平成 30 年 4 月、市内高校において生徒が突如心肺停止状態となり、その場に居合わせた生徒、教員が連携して、救急隊到着までの間、心肺蘇生法及び電気ショックを行い、社会復帰した。 ② 令和 2 年 9 月、市内野球少年団の指導者が突如心肺停止状態となり、その場に居合わせた子どもたち、他指導者たちが連携し、救急隊到着までの間、心肺蘇生法及び電気ショックを行い社会復帰した。なお、AED は小学校に設置されていたものが使用されています。	

5 応急手当推進の取り組み紹介

現在恵庭市は「市民の誰もが応急手当ができるまち」を目指して、応急手当の普及推進を市の重点施策として位置づけ、市を挙げて啓発活動に取り組んでいます。

市職員への救命講習	新たな PR 方法の実践
 令和 3 年から市職員への救命講習を開始。初日には市長も参加されました。	 令和 3 年に、北海道ハイテクノロジー専門学校と連携し、PR 動画とポスターを制作しました。